



明化の教育

5月号（第478号）
令和2年5月11日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

子供の自立に向けて—今だからできること—

校長 熊倉 勝

緊急事態宣言が延長されたことに伴い、臨時休校も今月末までとなりました。保護者の皆様も先が見えず、不安を抱えていることと察します。子供たちも学校再開を待ち望んでいることでしょう。私たちも、この間、子供たちが元気の源だったこと、子供たちと関わることができるありがたさを実感させられました。まさしく「子供あつての学校」です。教職員一同、一日も早く子供たちとの素晴らしい日々を迎えることができることを願い、今できることをしっかり行っていきたいと思えます。

さて、4月号で学校と保護者・地域とが共通にもつ教育に対する目標について、【行動の目標】の一つとして「自立すること」を掲げました。「自立する」とはどのようなことなのでしょう。よく言われるのは、「自分のことが自分でできるようになる。」ですが、私は将来を見据えてもっと広く捉え、「自分がやりたいことを自分で見付けて、自分から進んでやることができるようになる。」と考えています。では、子供を「自立させる」には、どうしたらよいのでしょうか。私は、「ありのままの自分を認める」という自己肯定感や「人の役に立っている」という自己有用感を高め、自分に自信をもてるようにすることが大切で、そのために今、大人ができることが2つあると思っています。

一つは、子供が行った行動に対して感謝の気持ちを伝えることです。例えば、お子さんが家事の手伝いをしたときに「手伝ってくれてありがとう。おかげで早く終わり、助かったよ。」と伝えてください。子供が大人に言われてうれしい言葉は「ありがとう」「あなたのおかげよ」だといわれています。今、子供たちは家で過ごす時間が増えています。ぜひ、お子さんに家の手伝いを行わせ、終わった後には「ありがとう。」という温かい言葉をかけてほしいと思っています。時間があるだけに絶好のチャンスではないでしょうか。

もう一つは、子供がやりたいと思ったことはやらせて、そばで見守り応援することです。例えばこのようなことです。ある子はブロック遊びが好きでした。それを知った母親は、まずブロックを買い足し、数を増やしました。そして、作品ができたなら子供の説明を聞き、がんばりや工夫を認め、できた作品を玄関に飾りました。するとそれを見たお客様が褒めてくれました。子供は大喜びです。また、子供が作品作りに困ったときには、ネットでブロックの作品例を探して見せてあげたそうです。このようにして、ブロック作りに夢中になり、好きなことをどんどん深めていくことができました。その子にとって得意なことがひとつ増え、自信につながったようです。子供たちにとって自由に使える時間が増えている今がチャンスです。ぜひ、好きなこと、得意なことにとことん取り組む時間を作ってあげてください。自分の興味のあることについてとことん調べることもよいでしょう。もし、何をしてもよいのか分からないときには、「おもしろそうな本があるよ。」「この折り紙どのようにつくるのかな？」など言葉をかけることも大切かと思えます。学校でも、子供たちが好きなこと、得意なことが見つけられるような手立てを考えて、発信していきます。そして、やることが決まったら、お子さんが納得するまでその活動を見守り、応援してあげてください。

「ピンチをチャンスに」よく言われる言葉ですが、自分で使える時間がある今こそそのチャンスです。子供たちの力を信じ、この困難を乗り越えるために必要なことは何なのかを考え、「自立」のための基礎を培っていききたいと思えます。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。